令和の新たな絆づくり
同窓生のさらなる結束を！

▲ 学び舎の想い出は永遠に。正門をくぐれば桜並木の向こうに富士山が見える

嶺朋会報

＝発行日＝
令和２年(2020年)２月28日

＝発　行＝
静岡県立吉原高等学校
同窓会 嶺朋
静岡県富士市今泉2160番地

＝印刷所＝
富士ニュース社
電話（0545）52－0551

人と人を繋ぐ　同窓会嶺朋に

嶺朋会長
土屋とき江

皆様には、日頃より同窓会嶺朋の活動にお力をお寄せ頂きまして、誠にありがとうございます。

令和元年五月に開催された嶺朋総会におきまして、会長をお受けさせていただきました。まだ至らぬ点も多々あるかと思いますが、いつも寄り添ってご指導くださる方々のお力添えをいただきながら同窓会の運営・活動を進めて参ります。

同窓会の目的は「会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与すること」です。今年度、母校への支援事業としまして、県教委より指定を受けている英語教育のコアスクール事業（「知性を高める学習の充実」）への補助金、東海大会・全国大会出場の部活動への激励金等で応援して参りました。今後も引き続き、在校生が学業や部活動で活躍できるよう支援の拡充を図りつつ、より活発な同窓生相互の交流、情報発信の場も育てていけたらと考えております。

深刻化する少子化の流れは、吉原高校にとっても大きな問題となってきています。私自身、微力ではございますが、同窓会長として吉原高校を「熱く」「広く」アピールして、人と人の繋がりを大切にしていきたいと思います。同窓会嶺朋を親睦の拠点として、吉原高校の発展を共に支え、尽力して参ります。ぜひ、皆様のご協力をお願い致します。

令和元年五月十九日（日）に開催された嶺朋総会において、会長をはじめとした新役員が承認されました。

令和元年度 同窓会嶺朋役員

顧問	松本　玲子
相談役	神田富美子
名誉会長	渡邊　　健
参与	田渕　江美
〃	芹沢　秀巳
会長	土屋とき江
副会長	西家　文代
〃	和久田恵子
〃	高橋　尚子
監査	勝又美佐代
〃	小泉恵津子

嶺朋総会に寄せて
～ああ緑が丘を合唱～

当番幹事・昭和43年卒　佐野　聖江

開催日　令和元年5月19日
会　場　ホテルグランド富士

令和元年という記念すべき年に嶺朋総会の当番学年になったのは、私たち昭和四十三年卒業生にとって一生の思い出となりました。

五月十九日、快晴の中、ホテルグランド富士に、約二百名が出席して総会は開かれました。

会長、来賓の挨拶、決算報告と議事が進み、今年は松本会長をはじめ役員の改選があり、その紹介も行われました。

いよいよ、私たちのアトラクション。真っ先に「ああ緑が丘」を歌いました。作曲は、当時来日し話題だったビートルズの曲を『クラシックの基本にのっとっている。』と、授業で「イエスタデイ」を英語で歌わせてくれた望月先生。

作詞は国語の長嶋先生で、この曲を歌うと、当時の木造校舎、中庭の緑の芝生、藤棚、ベンチにたたずむおさげ髪やおかっぱ頭の、制服姿の生徒たち、なつかしい風景が目に浮かびます。

次の演目は、福祉社会を表し、インターネットで話題の手話ダンス。もう一曲は会場を明るく盛り上げる「ダンシングヒーロー」を踊りました。これには会場から思いがけず手拍子をいただき、ステップが軽くなったものです。

準備は最初、ほんの二、三人からの出発で、こんなことでステージが埋められるかと不安でしたが、顔を合わせてみれば皆なつかしく、歌やダンスの練習は三月、四月は毎週のように繰り返し行われました。

また、一昨年秋にロゼシアターで行われた吉高創立百十周年記念式典においても、受付案内業務を会長、副会長の指示のもと、自主的に責任感を持って参加しました。

終わってみれば、半世紀を経て集まった仲間が、それぞれの担当をこなし、よく動いた一年間でした。総会を無事終わらせることができ、この後の人生、まだまだ頑張れるという自信をもちました。

末筆になりますが、私たちの活動が軌道にのるまで、何度も足を運んでくださった会長、副会長様。ピアノの伴奏者がいなくて困っている時、救世主のように現れて、伴奏してくださった時田様、本当にありがとうございました。

心より御礼申し上げます。

渡邊校長（同窓会名誉会長）よりご挨拶

なつかしのメロディー
「ああ緑が丘」

伴奏の時田様

再会を喜ぶ同窓生の皆さん

高桜祭「同窓会のお部屋」から

昭和53年卒　広瀬　陽子

第八回を迎えた「同窓会のお部屋」。昨年までの生活館ではなく、校舎三階の広い教室をお借りしての展示となりました。

本年度は、三十一名の方から、百点近くの作品をお寄せいただき、広い教室も素晴らしい作品で埋め尽くされました。恒例となった紙バンドの工作コーナーでは、「富士山マスコット」をつくりました。在校生はもちろん、多くの親子連れの方々にも体験していただきました。つたない説明にも関わらず、私たちが、思いつかないような配色で、素敵な富士山を作っていく、若い感性には驚かされました。また、若い方々とお話しできて心弾む思いでした。

午後には、同窓生の川島様による「琵琶の演奏会」も開かれ、在校生も多く聴きに来られました。初めて聴く琵琶の音は、哀愁を帯びながらも力強く、身体に当たってくるようで、とても感動いたしました。

還暦の年、当番学年として、再び母校とつながる機会を与えられたことに感謝いたします。

▶盛況だった「富士山マスコット」の工作コーナー

▶▼同窓生の力作が華やかに並ぶ高桜祭の会場

▲川島様（昭和46年卒）による琵琶演奏

支部だより

会員数増加に向けて

富士北支部
昭和43年卒
帯金紀代子

JR富士駅の北側に位置する私たちの富士北支部（呼称は若葉会）は、現在二百四名の会員で成り立っています。諸先輩方の御努力により、今日迄存続出来ています。

役員は会長、副会長、会計、会計監査二名、顧問七名、二十三の各町内に連絡委員を置き、それを五つのブロックに分け、ブロック長を置いています。現在の活動は二年に一度の会費徴収（二年分で五百円）、また八十五歳以上の方は名誉会員となり、会費は免除です。会の最高齢の方は現在、昭和十一年卒の方です。

役員会を経て支部総会を行ないますが、運営は二ブロックが順に担当し、会の受付から進行、アトラクション等々すべて分担し受け持ちます。次回は令和二年四月中旬にホテルグランド富士にて実施予定です。

今後の課題は、年々少なくなる会員数をいかに増やすか。また会員が多数参加出来る場を検討しながら、これからも長く引き継がれ富士北支部が続くことを願いつつ、本部嶺朋の発展をお祈りいたします。

同期だより

母校を思う

昭和38年卒
渡邉　弘美

私たちの学年は、吉原高校同窓会前副会長、各支部長、「嶺朋会報」編集委員等、活躍されています。

とりわけ、学年理事は、私たち学年幹事にいろいろと丁寧に連絡、報告をしてくださる母校思いで、大変人望のある理事。その思いの上に私たちの学年はまとまり、式典や総会に出席しています。学年の同窓会も開催されています。

先日、母校の中学校の文化祭へ行きました。中学生も生徒数減少の中、頑張って練習しているので見学してほしい、とのことでした。確かに、私たちのときの四分の一の生徒数になっています。ステージ発表の会場からは、四倍以上の拍手で溢れました。

私たちは間もなく喜寿を迎えます。理事から連絡を受け、五月の総会に出席したいと思います。

「吉原高校、栄えあれ」と願いつつ。

会員だより

「諦めない！」一歩踏み出す勇気

東京オリンピック（1964）聖火ランナー
矢部 恵子　渡邊しづ子
（昭和40年卒）

【渡邊】高三の私が東京オリンピック聖火ランナーの一員に選ばれ、当時の吉原市内を日の丸の付いたユニホームで走った感激は金メダル級の誇りであり、青春の宝物です。

その後、三十有余年体育教師として勤め、七十代になった今、再び聖火ランナーとして走る姿で、かつての多くの生徒たちへ一緒に学べた感謝と情熱を伝えることが出来ればと、応募に挑戦する自分の行動に花丸です。結果は二の次です。ワクワクドキドキ、春は来るかな!?

【矢部】生涯で二度、東京オリンピックを迎えられ、五十五年前の感動を思い起こせる人生に感謝です。

七十三歳になる私たち二人が、聖火ランナーとして再びゆかりの地を走りたいと大きな夢を抱いて応募することに挑戦致しました。夢を叶えるのは難しいと諦めず、「応募することに意義がある！」と勇気を出しての挑戦です。

在学中はクラスも部活も異なり、会話したことすらなかった二人が、思いがけない縁で昨年五十五年ぶりに出会い、「挑戦」に意気投合しました。

応募して以来、十二月の発表を待つまでの二人は、毎日がワクワクドキドキの夢を語り合う日々です。都合で一緒に応募できなかった仲間も喜んで応援してくれました。同志・友って素晴らしい!!

特ダネを追って
～徹夜で張り込みも～

週刊誌記者　宮下 直之
（平成10年卒）

駐車場に滑り込んできた軽乗用車の車体の色も、4桁のナンバーも、ネタ元の言った通りでした。車から降りた男性が、通夜が行われている斎場に向かいます。その後を追う複数の記者たち。通夜会場には、ひと足先に待ち構えているカメラマンがいます。

千代田区にある勤務先の社屋

受付で男性が記帳を済ませたその後――。頭を下げ、香典を渡す男性の姿が写真に収められました。この男性は、当時経済産業大臣を務めていた国会議員の秘書。政治家本人以外の者が通夜などで香典を渡すことを禁じた、公職選挙法違反の現場をとらえた瞬間でした。

僕はいま、週刊誌の取材現場で働いています。特ダネを掘り当てるため政治家や芸能人を追い、時には夜通しの張り込みをするような厳しい環境ですが、充実感があります。その成果の1つが前述の潜入取材。取材班の1人として現場に立ち合うことができました。

吉原高校を卒業後、大学を経て、地元の富士ニュース社に入社して7年半、記者としての基本技術を学びました。その後上京して、いまの週刊誌編集部が2カ所目です。

15年近く記者をしてきてあらためて感じることは、人と人のつながりの大切さ。どんなスクープの背後にもネタ元がいて、そのネタ元は1人の人間としての記者を信頼して特ダネを託してくれます。記者の仕事の本質は、自分を磨くことだと肝に銘じています。

「磨く」
ベンチプレス元世界チャンピオン

富士市役所勤務
福島 勇輝
（平成17年卒）

皆さんには、大切な人はいますか？私の高校生の頃のあだ名は、チャンプでした。幼い頃から父が経営するトレーニングジムで筋トレをして遊んでいました。ちょうど高校に入学する前の春休みにベンチプレスの日本記録（高校生部門）を樹立し、このあだ名がつきました。あれから継続してトレーニングを続け、2015年には一般の部門（全年齢）のベンチプレス世界選手権で世界チャンピオンになれました。

自分自身を「磨く」という作業はヤスリで削るように傷つき辛いときのほうが多いのかもしれません。し

かし、それをコツコツと継続すれば、少しずつ輝きを手に入れられると思います。

なぜ「磨く」のか。それは、周りの大切な人のためなのかもしれません。

日々の練習を重ねて

思い出の中には、必ず〝人〟がいると思います。今でも、高校の頃の友人に再会すると「チャンプ」と気軽に声を掛けてくれます。私が今がんばれているのも、大切な人との大切な時間を作るためだと思っています。

歩んできた過去（思い出）に力をもらいながら、これから歩いていく道での大切な思い出に期待しながら自分が出来ることを出来るだけやっていきたいと思います。

野球部1期生です

理学療法士
土屋 享平
（平成19年卒）

私は野球部が発足した年に吉原高校へ入学した。当時は現在より運動部数も多く、部活動の時間になると運動場はいつも犇めきあっていた。当然、野球部が練習できるスペースはなく、外周のランニング、正門の坂道ダッシュ、雨も降っていないのにピロティーでの補強練習。これが恒例のメニューとなっていた。練習場所を作るために部室棟横の切株を引っこ抜いたことも良い思い出である。このようにボールを使った練習は一切なく「まるで陸上部の練習」。これが当時の本音であった。

県大会入場行進

そんな中、遠藤一仁監督や父母会のご尽力により企業のグラウンドをお借りして本格的に「野球」が始まった。ナイター設備がないボールはボロボロのお古、そんな悪環境でも毎日、仲間と共に汗を流し、夏大会ベスト16という快挙を成し遂げた。この逆境をも前向きに捉え、高みを目指した経験が、社会人になった今も私の強みとなっている。

そんな私は現在、市内の整形外科医院に理学療法士として勤務し、野球を中心としたスポーツ疾患のリハビリやトレーナー活動を行っている、これからも部活動での教訓を胸に、医療者として母校発展に寄与できるよう努めていく。

仲間の文芸

俳句

身の皺を年輪と誉め秋迎ふ
昭和二十一年卒　渡辺　清子

風薫る黒板に書く賢治の詩
昭和二十二年卒　藤田千代江

落日の長し古木に花噴いて
昭和二十八年卒　土屋みさ子

保育士の膝におさな子若葉風
昭和三十一年卒　小林　令枝

薫風や向拝の象の牙長き
昭和三十二年卒　近藤　幸子

卒団す紅一点は三振王
昭和三十七年卒　金子　里美

惜春や宮の湧水滔滔と
昭和三十七年卒　加藤　雅子

裾野まで稲架並びゐる富士郡
昭和三十七年卒　三木　政代

短歌

樟脳の香も懐かしき袴あり卒業の日の孫うかびくる
昭和二十年卒　稲葉　正子

黄の浅き柚子の採りたて揉みながら大き三個を風呂に楽しむ
昭和二十五年卒　田中志げ子

あと幾たび訪ふことあらむふるさとのみ寺の黄葉仰ぐ
昭和三十年卒　福西美枝子

優しげに風に揺れいる花オクラお客のアリが隠れん坊する
昭和三十六年卒　丸山　一江

実りゆく酒米映る木犀に重なり渡る母の微笑み
昭和六十一年卒　牧野　育実

文芸作品（俳句、短歌、五行歌、詩など）募集中。
事務局FAX（0545-61-1833）までお送りください。

学校だより

吉原高校に赴任して

学校長
渡邊　健

本年度、赴任しました校長の渡邊健です。よろしくお願いします。

さて、私は、本校の素晴らしさに触れ、恵まれた教員であると感じています。生徒たちの爽やかな挨拶、教師の指導に真剣に耳を傾け、遅くまで教室に残り目標に向かって勉強する姿、高い志を掲げ部活動に青春をかけ取り組む姿を見て、吉原高校で働くことができ本当に良かったと思っています。

また、校長室での生徒との昼食会では、「先生や仲間が優しくて良い人が多く、学校生活が楽しい。入学して本当によかった。」と楽しそうに語ってくれます。上級学年になるほど吉原高校の生徒であることに喜びと誇りを持ち生活している生徒たちに、私は勇気付けられ、日々エネルギーをもらっています。

そして生徒が頑張る影には、生徒の成長と自立に向けて熱心に支えてくださる先生方の姿と関係の方々の支援があります。特に同窓会の方々の母校愛の素晴らしさに触れるたびに、「もっと頑張らなければ！」と気持ちが新たになります。

本年度、本校では、**「自分を信じる心」「相手を認める心」「社会の役に立とうとする心」を持って、未来を切り拓いていく力を身に付けた人材の育成を教育の目的としました。特に自己肯定感の向上を中心に教育活動を進め、生徒たちが自信をもって社会に飛び立って欲しいと思っています。**学校一丸となって、有為で魅力ある人材を育てていきますので、これからもご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

■卒業生の進路状況（過去3年間）

国公立四年制大学

北見工業　室蘭工業　秋田　山形　新潟
群馬　筑波　金沢　山梨　信州　静岡
愛知教育　名古屋工業　滋賀　島根
香川　静岡県立　都留文科　静岡文化芸術
岩手県立　前橋工科　長野　山梨県立
滋賀県立　等

私立四年制大学

慶應義塾　上智　立教　明治　中央
法政　青山学院　國學院　立命館　獨協
明治学院　東京電機　日本　東洋　専修
武蔵　成城　東海　東京都市　東京農業
杏林　大東文化　亜細亜　神奈川
名古屋外国語　等

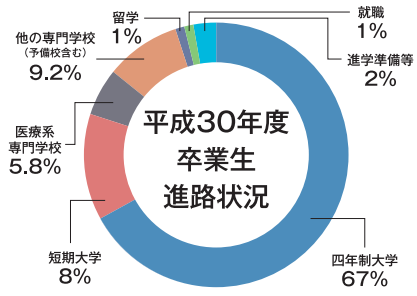
県内私立大学

常葉　順天堂　日本　静岡産業
静岡福祉　静岡理工科　等

短期大学
国公立短期大学：静岡県立大短大部　等
私立短期大学：常葉短大　等

専門学校
富士市立看護専門学校　静岡済生会看護専門学校

就　職
静岡県警　消防士　等



〔詳細は学校ホームページに掲載しています〕

部活動紹介

箏曲部

部長　松山　華穂

●第43回 全国高等学校総合文化祭
2019 さが総文　出場

2019 さが総文祭での演奏

私たちが全国大会で演奏した沢井忠夫作曲の「二つの群の為に」は、吉原高校箏曲部が過去に演奏したことのないような曲調でした。

この曲を完成させるために、部員同士で何度も話し合いながら作り上げてきました。講師である望月のり子先生のアドバイスを聞きながら、選曲から譜面づくり、強弱のつけ方や技法の使い方まで全てを一から考えました。佐賀県で行われた全国大会本番では、納得のいく演奏はできませんでしたが、最後まで妥協せず、納得のいく演奏を目指して協力した経験は、私にとって一番価値のあるものだと思います。夢に見た全国の舞台で、部員全員で演奏できたことを誇りに思います。多くの方々から、様々な場面で応援をしていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。

剣道部

顧問　樫下　大祐

- 平成30年度静岡県高等学校新人剣道大会女子団体準優勝
- 第28回全国高等学校選抜剣道大会　女子団体第5位　優秀選手賞　長田鈴菜
- 令和元年度全国高等学校総合体育大会　女子個人戦　遠藤　華　出場

全国を目指して道をひらく

道はひらく

私たち剣道部は、春に全国選抜、夏に全国高校総体を経験させていただきました。

平成三十年六月のＩＨ県予選にて初戦敗退した本校女子団体。その直後に、半年後の県予選で全国出場を達成しようと誓い、新チームがスタートしました。生徒たちは常に前向きな姿勢で過ごしてくれましたが、意気込みとは違い逆方向に進む本当に苦しい時期でした。迎えた県大会ではようやく実った半年間の成果に言葉では言い表せない位の感動を覚えました。どんなに心が折れそうでも、自分たちを見失うことなく継続してきたことが結果に繋がったのではないかと思います。

練習試合の相手をしてくださった県内外のチーム、子供たちを励まし信じてくださった保護者の皆様、厳しくも温かいお声をかけていただきました方々に深く感謝を申し上げます。最後に、本気で全国を目指して道をひらいた生徒たちを讃えます。

【平成30年度東海大会出場部活動】

＜水泳部＞

第66回東海高等学校総合体育大会　水泳競技

1500m　自由形　出場　3年　大井 優弥

＜陸上部＞

第62回東海陸上競技選手権大会

女子円盤投げ　出場　2年　影山 悠

第22回東海高校新人陸上競技選手権大会

女子円盤投げ　出場　2年　影山 悠

＜なぎなた＞

第66回東海高等学校総合体育大会

なぎなた　男子個人　3年　落合 峻

新聞部

部長　山本　一夢

- 第43回 全国高等学校総合文化祭2019　さが総文　出場
- 第23回 全国高校新聞年間紙面審査賞入賞
- 第48回 全国高校新聞コンクール奨励賞受賞

モットーは「足を使った新聞づくり」

私たち新聞部は、二年生四人と一年生一人という少ない人数で、顧問の大村文美先生のご指導のもと、活動をしています。

私たちは月に数回、学校行事や部活動の活動実績など、校内の出来事を中心に取材をし、「吉原高プレス」を発行しています。また年に二回、外部の方にもご協力をいただき、複数面構成の「吉原高新聞」を発行しています。吉原高新聞は、発行の数ヵ月前から計画を立て、部員同士協力して「足を使った新聞作り」をモットーに日々活動をしています。夏には全国総文祭に参加、また秋には静岡県新聞コンクールで優秀賞を受賞しました。

今年度も少ない人数で活動しており、苦労することも多いですが、読んでくれる人が「わかりやすい」「読みたくなる」と思ってくれる新聞を制作できるように、これからも努力していきたいと思います。

〔文責：副校長　田渕江美〕

県指定事業「英語教育コアスクール」について

エンパワーメントプログラムの様子

本校は昨年度から令和二年度までの三年間、県から「英語教育コアスクール」の指定を受け、グローカル人材の育成に取り組んでいます。その取組のひとつが英語４技能の育成を目指す授業改善です。授業改善アドバイザーの静岡大学教育学部亘理陽一准教授から助言をいただきながら、聞く、読む、話す、書く力をバランスよく伸ばす授業や、ＩＣＴを効果的に活用する授業を英語科で研究、実践しています。昨年度、今年度と2度公開研究授業を行いました。

また、生徒が自ら英語を学習する動機づけのために、イングリッシュキャンプ、海外研修、異文化理解発表会、英検講座、国際理解講座、エンパワーメントプログラムなど多くの機会を設定しており、生徒たちの満足度も高いです。

このうち、昨年度と今年度の十二月に希望者対象に実施した「エンパワーメントプログラム」は、生徒約五～六名に海外の大学生（院生）が一名つき、英語でのディスカッションやミニプロジェクトを一緒に行いました。生徒はオール・イングリッシュの活動に参加する中で「英語で考え、英語で発話する」機会を多く与えられ、英語で自己表現をする力を養うことができました。このプログラムには同窓会と後援会から補助をいただいています。

- **コアスクール**…特色ある学力向上策を展開するモデル校として静岡県教育委員会が指定。４つある重点項目の内、吉原高校は英語教育のコアスクールに指定されています。
- **エンパワーメントプログラム**…日本の将来を担う若者を対象に、欧米などの一流大学の学生を招き、ディスカッションやミニプロジェクトを通じて、英語力やグローバル感覚などを培う研修プログラム。

新企画 先生方お久しぶりです！

加藤 幸一 先生

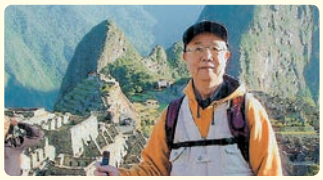
・赴任年度　昭和32年度～昭和37年度
・担当教科　英語

想い出と近況

（箇条書きにします）

想い出①…地元女流作家、小糸のぶの名作「母子草」のロケが、丘の上に移転した頃、新校舎の職員室で行われ、私の隣席に人気女優・佐久間良子が坐す、実写をまだ見ていません。想い出②…当時富士高にも兼務し、ノーベル賞候補の戸塚君を、また妹の敦子さんを吉高で教えた。想い出③…富士山に連続七回登頂。生徒のリュックも背にした。

近況①…当年、米寿、健在。母は百二歳で死去、祖母も九十九歳、叔母は百三歳。DNAを確信。近況②…連日、杖なしで五千歩が目標値。近況③…家族状況、晩婚ながら子供二人が結婚してくれたので、孫五人、まだ小中高。成人まで頑張ります。近況④…在任中から海外の見聞に異常な興味あり、休暇を最大限活用、飛行機百万マイルを目指すが残念ながら、エコノミークラス症候群に襲われ、ドクターストップ。近況⑤…終活 骨の半分は祖先の墓へ、残部は分割して地球の諸大陸と海洋に散骨を希望。



「健康長寿が目標です」

北村 欽哉 先生

・赴任年度　昭和44年度～昭和53年度
・担当教科　日本史

研究テーマは『朝鮮通信使』

定年退職してはや二十年、昭和四十四年から十年間勤めた吉原高校時代のこともよく思い出します。一番の思い出は生徒たちが元気だったことです。青年の家の合宿訓練、学校から始まり学校に帰る春の遠足、部活動の事など。担がれて吹奏楽部を立ち上げた時、顧問になって面食らったこともよく覚えています。先生方も個性あふれる方が多く、囲碁を趣味にしている方々とは今でも年一回、一晩旅館に泊まって試合を楽しみ、思い出話の花を咲かせています。

教員生活最後の頃、朝鮮王朝からの使節（朝鮮通信使）が遺した書との出会いがあり、今はその調査に没頭しています。この分野はほとんど調べた人がいないらしく、次々と新しい出会いがあり、またあちらこちらの講演会で話をさせてもらっています。皆様方との出会いもあるかもしれません。その際はよかったら是非ご参加下さい。

「講演会にご参加ください」

令和2年 嶺朋総会

日時:2020年5月17日 午前11時から
会場:ホテルグランド富士(富士平垣本町8-1)
会費:5,000円※当日会場でお預かりします。

●当番幹事は昭和44年卒の皆さんです。
●出席ご希望の方は4月30日(木)までに
下記嶺朋事務局までご連絡ください。

嶺朋事務局 TEL.080-5134-4480
FAX.0545-61-1833
担当:石原 聡美　（または各学年理事まで）

令和2年度 支部長名簿

支部名	氏名	卒年
吉原	太田 素雅	51
今泉	藤田真理子	46
伝法	加藤 順子	42
広見	小林 昭子	40
青葉台	佐野 敏江	31
原田	市川喜和子	40
吉永	豊田 幸子	34
須津	後藤 昌代	38
元吉原	米山てる美	38
今泉北	渡辺 昌則	27
吉永第2	木又美恵子	47
富士見台	川島 けい	46
浮島	綾部 明子	41
鷹岡	勝又美枝子	39
富士北	帯金紀代子	43
富士南	漆畑 典子	39
田子浦	安田 幸子	38
富士川	望月のり子	41
松野	原 郁美	50
富士宮	土屋 善江	41
沼津	齋藤 花枝	47
静岡	宮下 能弘	28
蒲原	宇佐美節子	38

編集後記

同窓会報二十七号をお届けします。ご寄稿くださいました皆様に編集委員一同、心より御礼申しあげます。今号の新企画は恩師からのお手紙のコーナーです。先生方のお元気な日常やご活躍の一端を知ることで母校に思いを馳せ、往時を回顧して頂ければ幸いです。本紙の発行は年一回、六千部を印刷して支部ごとに配布されます。編集部では伝統の上にさらなる親睦と和を求めて同窓生からの情報をお待ちしています。活気ある活動や心温まるエピソードをお知らせ下されば有難いです。

編集委員長
西家 文代
編集委員
三木 政代
川島 けい
綾部 明子
太田 眞弓
編集委員顧問
神田富美子

嶺朋会報へのご意見やご感想、取り上げて欲しい情報などありましたら、下記まで郵送にてお送りください。
〒417-8545 静岡県富士市今泉2160番地　静岡県立吉原高等学校同窓会事務局